

研究・調査報告書

報告書番号	担当
583	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Online alcohol interventions: a systematic review. オンラインのアルコール介入治療：系統的レビュー	
執筆者	
White A, Kavanagh D, Stallman H, Klein B, Kay-Lambkin F, Proudfoot J, Drennan J, Connor J, Baker A, Hines E, Young R.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Med Internet Res. 2010 Dec 19;12(5):e62.	
キーワード	
アルコール、薬物、インターネット、健康、ウェブサイト相互作用、オンライン治療、オンライン情報	
要 旨	
<p>目的： アルコール問題解決のための有用なオンラインプログラムが増加しており、これらの有効性を支持するエビデンスの系統的レビューは時宜を得ている。そこで本研究では不適切なアルコール使用是正のためのオンライン介入治療の有効性を概説する。</p> <p>方法： 文献検索には Medline、PsycINFO、Web of Science、Scopus を用い、1988 年以降発表の英語抄録（学位論文除く）の報告を対象とした。検索語は、(1) Internet, Web*, (2) online, computer*, (3) alcohol* (4) E/effect*, trial*, random* (アスタリスクはワールドカードを意味する)とし、(1)初回介入が WEB 配信されたもの、(2)介入が中等度もしくはアルコール使用の中止に焦点をあてた内容であるもの、(3)アルコール関連のスクリーニング、評価もしくは介入が無作為化比較試験である記事を選んだ。</p> <p>結果： 文献検索により、無作為化比較試験 31 編、判定基準に合致した 17 編を選択した。17 編のうち 12 編(70.6%) は大学生を対象としたもので、11 編(64.7%)は特にリスク者、大量または過度飲酒者に焦点をあてていた。サンプルサイズは 40～3,216 (中央値 261) で 12(70.6%) の研究では主に短期の個人別フィードバック介入がおこなわれた。公表データを用いて、17 編のうち 8 つの研究からエフェクトサイズを抽出した。1 週間または 1 カ月あたりのアルコール単位を抽出できた 5 つの無作為化比較試験では、治療後のエフェクトサイズは 0.02 から 0.81 (平均 0.42、中央値 0.54) だった。短期の個人別フィードバック介入の前後のエフェクトサイズは 0.02 から 0.81 で、複数回介入で構成された 2 つの試験では介入前後のエフェクトサイズは 0.56 だった。血中アルコール濃度のエフェクトサイズは 0.22 から 0.88 で平均 0.66 だった。</p> <p>結論： 本研究により、オンラインのアルコール介入治療は利用者に利益をもたらすことが示唆され、特に伝統的なアルコール関連のサービスにアクセスしそくない女性や若年層やリスクの高い利用者にとって有用である。しかし、エフェクトサイズが抽出できた研究数は限られており、結果の判定法と追跡期間がさまざまであることや学生を対象とした研究が多かったことを考慮する必要がある。オンラインのアルコールアプローチや、プログラムの濃密度、電話か対面介入の相加効果に加えて、伝播とマーケティングの効果を理解するためには、さらなる地域対象の広範囲な無作為化比較試験が必要である。</p>	